

不 忍 辨 天 靈 蛇 奇 談

九十九  
を見附けて連根を掘る泥舟を池の中へ出して其岸まで引揚げやふとした  
が餘程重い石を袂へ入れて投身したものが上り際よちつて帯が解けズル  
くズルくど又中へ…… ○アレと云ふ間も若物と帯丈の手も残つた  
が死骸の行方が見へなく成た再度井戸屋さんと水潜りの上手な人が這入  
て調たが何うしても其死骸が分らぬ何うしたものだらふと四五日掛つ  
て隈なく探がして見たが更も其行術が知れぬ ○多分アノ池へ這入て  
主も成たのであらふといふ其頃牽強附會の説を稱へ死骸の所在が分らぬ  
所から主だくといふ噂が立つソコで前年の毎年七月の十三日よの必す  
赤飯を一斗づゝ炊いて此不忍の池へ投げ込んだが翌朝まで強飯が無  
くあるといふ是の不思議でも何でもない緋鯉やスッポンや龜の子が澤山  
居るから夫が皆喰つて仕舞う譯だらふ又死骸の知れぬのは丁度無  
い所くど調べたのであらふ併し今以て其噂が残つて居るさて孝之助の  
芝の一家を起して錦袋圓を受出し十四代目の芝大助の代に至つて遂に滅

不 忍 辨 天 靈 蛇 奇 談

却をした是も店へ女が出る様に成てからだといふ先づ大畧當講談の未詳  
人の亡び替人の榮へ目出たうくと云ふ所にて止め置きます

明治廿六年六月二十五日印刷  
明治廿六年同月二十八日編發行  
明治廿六年七月十日印刷  
明治廿六年七月十三日後編發行  
明治廿九年四月二十日改題再版印刷  
明治廿九年五月七日發行

版權所有

編輯者兼  
發行者

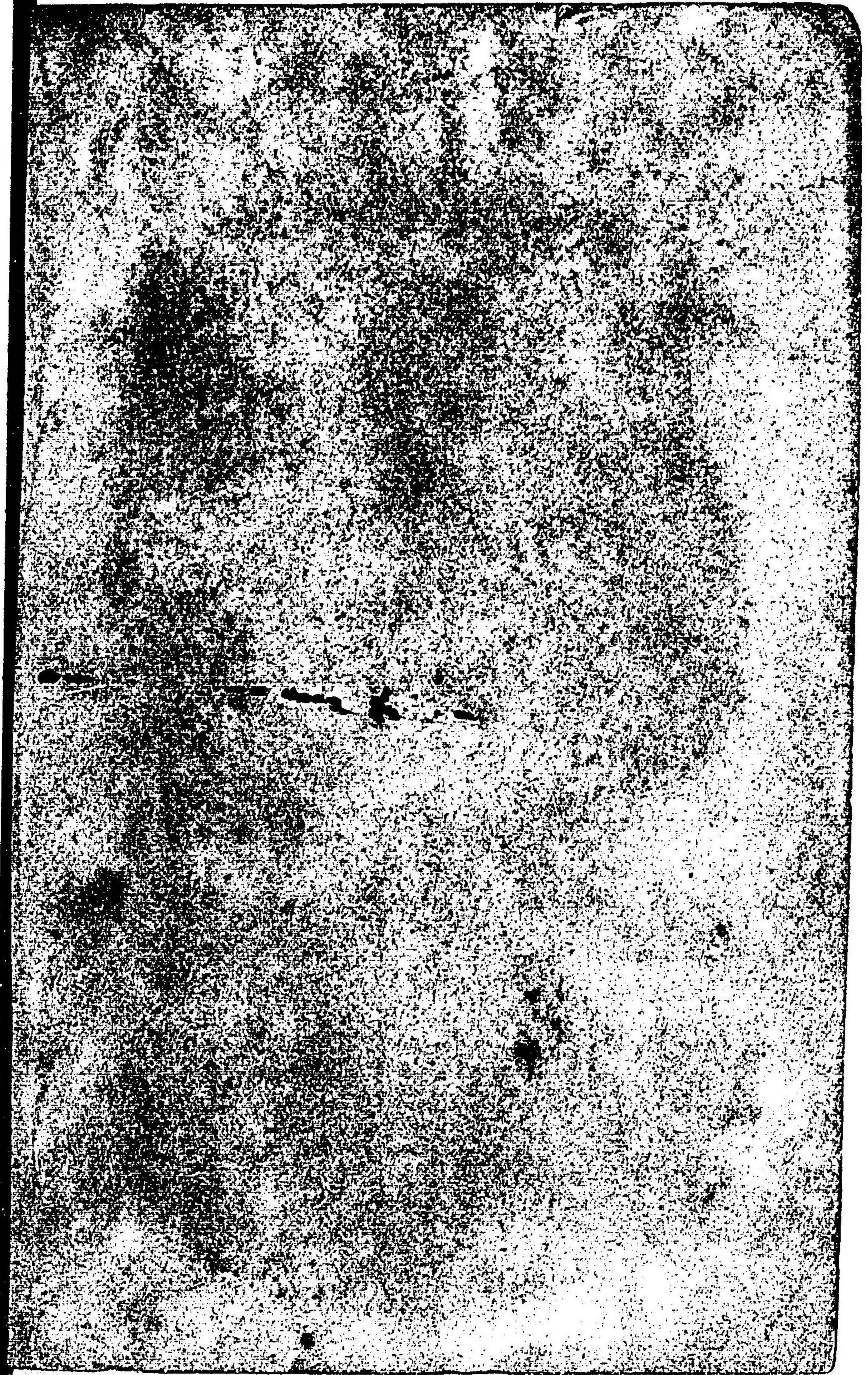
日本橋區濱町三丁目一番地  
太刀川文吉

印刷者

神田區美土代町二丁目一番地  
金崎金平

印刷所

同  
三光社



097192-000-4

特9-918

不忍弁天靈蛇奇談

邑井 貞吉 / 講演

M29

DBS-1005

